

## 資料1. 出生力関連用語解説

出生力の測定には種々の出生指標が使用される。ここで一般によく使われる主な出生指標について紹介する。

### 置換水準 (replacement level)

世代間の人口の置き換え(更新)がちょうど可能になる状態、すなわち純再生産率が1.0の状態。先進国の死亡力水準を仮定すれば、合計特殊出生率が約2.1のときに相当する。途上国では2.1よりやや大きい2.2前後である。

### 家族規模 (family size)

人口学ではしばしば、子供数、パリティあるいは出生力と同義に用いる。

### 家族計画 (family planning)

出生児数あるいは出産間隔を調節しようとする夫婦あるいは個人の意識的な努力。實際上、産児調節、計画出産、受胎調節、出生力調整などと同義に用いられる。

### 完結出生力 (completed fertility)

再生産年齢を経過し終わった時に達成された累積出生力(完結出生児数)。個々の女子、婚姻、出生コホートおよび結婚コホートのいずれにも用いられる。したがって、全女子人口にかかわるのか、それとも有配偶女子にのみ限定されるのかを明確にする必要がある。完結家族規模ともいう。

### 既往出生児数 (number of children ever born)

1人の女子が一定時まで産んだ子供数。通常は出生児にのみかかる。コホート出生力の代表的指標。再生産年齢を経過し終わった段階の既往出生児数は完結出生力となる。

### 既往生存児数 (number of children surviving)

既往出生児のうち、現に生存しているものの数。

#### 期間出生力 (period fertility)

ある期間 (通常は1年) に観察された出生力、普通出生率をはじめ、ほとんどの出生力指標は期間出生力を表す。

#### 希望子供数 (desired number of children)

ある特定の夫婦あるいは集団の希望する子供数。出生力需要の指標。理想子供数と区別されることもある。希望子供数, 希望出生力ともいう。

#### 近接要因 (proximate determinants)

出生力に直接関与する生物学的・行動的要因で、ボンガーツ (J. Bongaarts) によれば、結婚、避妊 (不妊法を含む)、人工妊娠中絶、産後不妊 (一般に、母乳哺育による) の4変数が主要なものである。

#### 結婚 (marriage)

婚姻 (法律上の結婚) および事実婚 (内縁関係) を含む。人口動態統計では法律婚である婚姻が取り扱われるが、人口センサスの配偶関係の調査では事実婚を含む結婚が取り扱われる。結婚自体は社会的事象であるが、出生の大部分は結婚の内部で発生するので、人口学的にも重要。

#### 結婚コウホート (marriage cohort)

同じ期間 (多くは1年) 内に結婚した夫婦の分子的集団。同時出生集団の拡張である。出生力分析の有用な単位をなす。

#### 結婚持続期間別 (特殊) 有配偶出生率 (duration-specific marital fertility rate)

特定の結婚持続期間にある有配偶女子に発生した出生の女子人口に対する比率 (通常は千分比)。

#### 結婚力 (nuptiality)

結婚の頻度。結婚している人々の特性、結婚の解消を取り扱う。

#### 合計特殊出生率 (total fertility rate : TFR)

期間出生力の代表的な指標。ある年次における再生産年齢の女子人口に関する年齢別特殊出生率の合計。1人の女子が一生の間に生むと期待さ

れる子供数と解される（女子1人当たり生涯平均出生児数）。

#### コウホート (cohort)

同時発生集団の意。ある特定の期間（多くは1年）に同一の事象（結婚、出生など）を経験した（あるいは経験する）人々の集団。分析単位としてきわめて重要な意味を持つ。出生コウホート、結婚コウホート、コウホート分析、コウホート出生力、コウホート生命表など。同時出生集団を年齢コウホートともいう。

#### コウホート出生力 (cohort fertility)

あるコウホート（同時出生集団）が一定期間（できれば全再生産期間を通じて）に発揮した出生力

#### 再生産年齢 (reproductive ages)

個人（主に女子）が親になりうる年齢。女子の場合、15歳から49歳（もしくは44歳）の範囲を考えることが多い。出産年齢あるいは出産可能年齢ともいう。

#### 差別出生力 (differential fertility)

ある期間あるいは特定のコウホートに見られる階層間の出生力格差。地域、職業、所得、教育、宗教などの相違によって出生力水準が異なること。比較は完結出生率によることが多い。

#### 産後無月経 (postpartum amenorrhea)

出産後まもなくの間、月経をみないことを産後無月経という。生理的なものであり、産後母乳哺育を行うと産後無月経期間は延長する。母乳哺育を行わない場合の産後無月経期間は平均して約2カ月程度であり、母乳哺育を行う場合は、母乳哺育期間が長いほど産後無月経期間も長くなる。

#### 産後不妊 (postpartum infecundability)

出産後まもなくの間、女子は生理的に妊娠しにくい状態にあり、これを産後不妊という。産後母乳哺育を行うと産後不妊期間は延長する。産後不妊期間は産後無月経期間にはほぼ一致する。

**産児調節 (birth control)**

妊娠を避けようとする夫婦の行動。しばしば避妊、家族計画などと同義に用いられる。産児制限ともいう。

**自然出生力 (natural fertility)**

避妊、人工妊娠中絶等意図的な出生抑制をいっさい行わない人口の出生力。既往出生児数(パリティ)の多少によって、夫婦がその出生力行動を変えない場合に発生する有配偶出生力。

**自然増加 (natural increase)**

出生と死亡の差。

**出生 (live birth)**

出産のうち、生きて生まれたもの。

**出生間隔 (birth interval)**

連続する2回の出生あるいは結婚と最初の出生の間の間隔。死産を除く。死産を含む場合には、出産間隔という。

**出生順位 (birth order)**

同じ母親からこれまでに生まれた子供数による出生順序の分類。死産を除く。死産を含む場合には、出産順位という。

**出生性比 (sex ratio at birth)**

出生児の性比。女児100人当たり男児105人程度で安定している。

**出生力 (fertility)**

個人、夫婦、集団あるいは人口における出生の実績あるいは頻度。人間が社会生活の中でその出生能力に一定の制限を加え、現実発揮する能力。潜在的な妊孕力とは異なり、現実発生した出生にのみかかわる。普通出生率、合計特殊出生率、総再生産率、総出生率、婦人・子供比率、1夫婦当たり子供数、既往出生児数などによって表現される。

**出生力転換 (fertility transition)**

伝統的社会における高出生力から近代社会における低出生力へ移行すること。

### 初婚率 (first marriage rate)

ある年の年齢別（男子または女子）初婚数を，その年の年齢別（男子または女子）人口で割った値を年齢別初婚率という。普通15～49歳までの年齢別初婚率を合計したものを合計初婚率といい，年齢構造の影響を除いた初婚率の水準を示す指標である。合計初婚率が1に近いほど，その年の初婚率の水準が高いことを表す。

### 純再生産率 (net reproduction rate : NRR)

女子のある出生コウホートが一定の出生秩序と死亡秩序の下で，生涯に生むと思われる女兒数（生涯平均女兒出生児数）。これが1.0の場合，人口はちょうど再生産（置き換え）可能な潜在力を持つ。また，1.0以上は増加の，1.0以下は減少のポテンシャルを示す。

### 人口転換 (demographic transition)

伝統的社会における高出生・高死亡状態から近代社会における低出生・低死亡状態へ移行すること。

### 人口動態統計 (vital statistics)

特定の期間における人口の変動要因に関する統計。狭義には，出生，死産および死亡の自然動態にかかわる。広義には婚姻，離婚，移動など社会動態も含む。

### 人工妊娠中絶 (induced abortion)

妊娠を人工的，意図的に中絶することで，人工流産ともいう。

### 総出生率 (general fertility rate)

期間出生力の近似的指標。再生産年齢（通常は15～49歳）女子人口に対する1年間の出生数の比（通常は千分比）。普通出生率ほどではないが，年齢構造の影響を多少は受ける。

### 乳児死亡 (infant mortality)

出生後1年未満の出生児を乳児と呼び，その死亡を乳児死亡という。その程度を測るには，ある年の乳児死亡数をその年の出生数で割った率（一般に出生1000につき）による。乳児死亡は死亡の中でも重要な地位を

占め、乳児死亡率の高低は、その国の経済的水準や公衆衛生の程度を反映するものとしてしばしば用いられる。

#### 年齢別特殊出生率 (age-specific fertility rate)

特定の年齢（あるいは年齢階級）の女子に発生した1年間の出生数で、通常は15～49歳の女子人口について、千分比で表す。

#### 年齢別（特殊）有配偶出生率 (age-specific marital fertility rate)

特定の年齢（あるいは年齢階級）の有配偶女子に発生した1年間の出生数で、通常は15～49歳の有配偶女子人口について、千分比で表す。多くの社会では、出産のほとんどが結婚の中で発生しているので、出生力指標としては年齢別特殊出生率よりむしろ優れているが、データは入手しにくい。

#### 配偶関係 (marital status)

結婚に関する個人の属性。未婚、有配偶、離別および死別に分けられる。人口構造の重要な分類基準。

#### ハテライト指数 (Hutterite indices)

出生力水準と結婚の普及状態を表す4種類の指標。ことに歴史人口学的研究で広く用いられる。北米に住むキリスト教の一派ハテライトに見られた記録史上最高の出生力水準（自然出生力）を基準とした一種の間接標準化法を利用したもの。年齢構造や配偶関係構造の変化を捨象してあるため、長期分析や国際比較に有用。

#### パリティ (parity)

1人の女子が一定時点までに生んだ子供数。既往出生児数と同義。パリティ0は無子、パリティ1は子供1人。

#### パリティ拡大率 (parity progression ratio)

少なくともn人の子供を持つ女子（あるいは夫婦）のうち、少なくとももう1人の子供を持とうとしているものの割合。この率は通常、結婚コウホートについて計算される。

#### パリティ別（特殊）出生率 (parity-specific fertility rates)

パリティ  $n$  の女子人口に対する第  $n + 1$  順位の出生数の比率。

### 避妊 (contraception)

文字どおり妊娠を避けることであり、種々の医学的方法を用いることによってその目的を達する。通常は一時的な避妊をいい、永久的な避妊は不妊手術として別に扱う。受胎調節ともいう。避妊方法としてはさまざまあるが、経口避妊薬 (ピル)、IUDを近代的方法と呼び、コンドーム、ベッサリー、錠剤、ゼリー、オギノ式、性交中絶、洗浄などを伝統的方法という。

### 標準化出生率 (standardized birth rate)

年齢構造あるいは (および) 配偶関係構造の影響を除去した出生率。

### フィカンディティー (fecundity)

潜在的な出生能力、すなわち出生に対するいっさいの抑制が取り除かれた場合の仮定的な出生力を、現実の出生力 (fertility) に対して fecundity という。避妊や人工妊娠中絶等意図的出生抑制をいっさい行わない自然出生力 (natural fertility) の状態に加えて、結婚の遅れや産後母乳哺育のような非意図的出生抑制も存在しない状態を指し、ボンガーツによれば、女子 1 人当たりの生涯出生数にして 15.3 にのぼるといふ。

### 婦人・子供比率 (child-woman ratio)

出生力の近似的な指標。出産年齢 (通常 15~49 歳) の女子人口に対する 0~4 歳 (時に 0~9 歳または 5~9 歳) 人口の比率。出生登録統計が不完全な場合に、人口静態統計から算出する。通常は千分比で表現。

### 普通婚姻率 (crude marriage rate)

婚姻の頻度を表す指標。年央人口 (通常は 7 月 1 日の人口) に対する 1 年間の婚姻件数の割合 (通常は千分比)。

### 普通出生率 (crude birth rate)

期間出生力の代表的な指標。年央人口に対する 1 年間の出生数の割合 (通常は千分比)。出生率と略称することも多い。データは得やすいが、年齢構造や配偶関係構造の影響を受けやすい。出生力水準の比較には必

ずしも適当なものではないが、計算が簡便でまた途上国でも比較の利用可能な統計である。

#### 普通離婚率 (crude divorce rate)

離婚の頻度を表す指標。年央人口（通常は7月1日の人口）に対する1年間の離婚件数（離婚者数を採る場合もある）の割合（通常は千分比）。

#### 不妊手術 (sterilization)

意識的でなく自然の原因によって、妊娠能力が妨げられたり、妊娠しても生児を得ることができないものを不妊症と呼ぶのに対して、人為的、意識的に妊娠能力を除去することを不妊手術という。一般にはまた避妊手術といういい方もある。理論上は永久に不妊する場合と一時的に不妊する場合が考えられるが、通常不妊手術といえば永久不妊を指す。不妊手術は女性に行うもの（卵管結さつ、[tubectomy, tubal ligation]）と男性に行うもの（精管結さつ、[vasectomy]）の2つがある。

#### 平均出産年齢 (mean age at childbearing)

子供の出産時における母親の平均年齢。多くは年齢別特殊出生率（あるいは年齢別有配偶特殊出生率）について加重平均して求められる。

#### 平均初婚年齢 (mean age at first marriage)

個人が最初に結婚するときの平均年齢。コウホートと期間の双方について考えられるが、動態統計で得られるのは後者のみ。再婚を含む平均結婚年齢と区別される。

#### 平均世代間隔 (mean length of generation)

女兒の出生時における母親の平均年齢。

#### 未婚率 (percentage never married)

配偶関係のうち、有配偶、死別、離別を除く婚姻関係のない状態を未婚といい、すべての配偶関係の人口のうち未婚者の占める割合を未婚率という。未婚率はすべての年齢に対しても、あるいはある特定の年齢に対してもそれぞれ計算され、用いられる。

#### 有配偶出生力 (marital fertility)



有配偶女子の出生力，多くの場合，特定年齢の女子あるいは結婚持続期間別の有配偶出生率によって測定される。

#### 有配偶率 (proportion currently married)

人口（通常は15歳以上人口）に占める有配偶人口の割合。有配偶には内縁関係を含む。有配偶率は男女，年齢によって差がある。再生産年齢女子人口の有配偶率は，出生力の重要な決定因をなす。

#### 累積出生率 (cumulative fertility)

1人の女子，女子の出生コウホートあるいは結婚コウホートに発生した出生数の累計。再生産年齢の終わりまでに達せられた累積出生力は，真のコウホートについては完結出生力，擬制的コウホートについては合計特殊出生率と呼ばれる。

### 参考文献

- 人口問題協議会編『人口事典』東洋経済新報社，1986年。
- 人口問題審議会編『日本の人口・日本の社会』東洋経済新報社，1984年。
- 上田正夫『人口統計』一粒社，1969年。
- 大淵寛『出生力の経済学』中央大学出版部，1988年。
- 岡崎陽一『人口統計学』古今書院，1980年。
- 河野稔果『世界の人口』東京大学出版会，1986年。
- 山口喜一編著『人口推計入門』古今書院，1990年。
- International Union for the Scientific Study of Population, *Multilingual Demographic Dictionary*, ordina editions, リエージュ, 1982年。
- Shryock, Henry S. ; Jacob S. Siegel and Associates, *Condensed Edition by Edward G. Stockwell, The Methods and Materials of Demography*, ロンドン, Academic Press, INC., 1976年。
- Bongaarts, J. ; R. Potter, *Fertility, Biology, and Behavior*, ニューヨーク, Academic Press, 1983年。